

～妊娠と年齢の話題について知っておくべきこと～

近年、欧米をはじめ日本でも出産年齢が高くなってきています。一般的に高年妊娠とは、35歳以上の妊娠を指します。35歳以上で妊娠した場合でも大多数の方は問題なく出産を経験されておりますが、高年妊娠に伴う特有の注意点について知っておき、ご自身のライフプランニングを行うことはとても重要なことです。

※以下に示すリスクは35歳以上で少しずつ上昇してくるといわれていますが、35歳以上の全ての方にあてはまるものではありません。

👉 妊娠率の低下や遺伝への影響

一般的には、母体年齢の上昇に伴って、流産率の上昇や妊娠する可能性が徐々に低下するといわれています。また、染色体異常の体質をもつお子さんを妊娠する確率が上昇します。

この現象は男性にも当てはまり、男性の年齢が高齢化すると相手の流産の確率が上がったり、先天的なご病気を持つお子さんが生まれる可能性が上昇したりします。

👉 妊娠合併症のリスク増加

母体年齢が高いほど、妊娠中に血圧が上昇（妊娠高血圧腎症）し、前置胎盤などの合併症上昇、帝王切開分娩を行う頻度が高くなり、特に45歳以上では30-34歳と比較するとそれぞれの妊娠合併症を起こすリスク比が約2倍近い結果となりました。（[日本における超高齢妊婦の妊娠予後を検証 | 国立成育医療研究センター \(ncchd.go.jp 参照\)](#)）

他に、妊娠糖尿病などの妊娠合併症が多くなるといわれております。

高年妊娠では少なくとも妊娠に伴って起こりうる合併症に注意をしながら、あるいはリスクを検討しながら妊娠・出産を計画していくことが重要と考えられます。プレコンセプションケア外来では注意すべきポイントおよび健康状況に関する情報提供を多方面から行うとともに、生殖チーム・産科チームと協力しつつ様々な妊娠・分娩管理の情報提供も行い、シームレスに連携を行っています。

ご質問がある方はぜひ遠慮なくいらしてください。

※不妊治療に関しては、当科[リプロダクション部門](#)（リンク）をご参照ください。